（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　きかん車			
○保護者評価実施期間	2026年　1月　13日	～	2026年　1月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	4
○従業者評価実施期間	2026年　2月　2日	～	2026年　2月　14日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　2月　25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご本人の発達段階を正確に見立て、保護者のニーズを汲んだ活動案を立案することが出来る。	・こどものアセスメントや、特性に合わせた支援を専門職員に相談できる。 ・療育の前後で保護者と直接話をする時間が取れている。	・社内外の研修に積極的に参加し、職員のアセスメント力、支援の質を向上させていく。
2	活動スペースや人員が適切に配置されている。	・活動内容やこどもの様子に合わせて、支援に必要な人員を配置している。 ・活動によって、療育室を使い分けている。	・活動スペースや人員の配置が、その活動やこどもに合っているか、保護者の意見も聞き取っていく。
3	共感的な支援、こどもが安心できる支援を提供できる。	・こどもの興味や特性に合わせて、課題や声かけを工夫している。 ・スケジュールを事前に伝えるなど、先の見通しが持てるようにしている。 ・療育終了後、本人のよく出来たところを本人の前で保護者に積極的に伝えるようにしている。	・年齢に応じた小グループを検討する。 ・新しい活動や、余暇活動も企画していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援プログラムや、事故等（怪我等を含む。）が発生した際の対応について、周知されていない。	・支援プログラムがホームページに掲載されていることが周知されていない。 ・事故等が発生した際の対応について、契約時にお伝えしているが、事故等がなければ再確認する機会はない。	・支援プログラムや、事故等（怪我等を含む。）が発生した際の対応について、契約時に丁寧に伝えていく。 ・支援プログラムがホームページに掲載されていることを、改めて伝えていく。
2	個別支援計画の内容や、計画に沿った支援になっているかどうか、疑問に思われている。	・日々の情報交換やモニタリングを通して個別支援計画書を作成しているが、文面が分かりにくいため伝わりにくい。 ・計画と支援の繋がりについて、説明が足りていない。	・個別支援計画書の説明をする際、文面だけではなく具体的な活動内容も踏まえて説明する。
3	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル、非常災害の発生を想定した訓練の実施について、保護者に周知されていない。	・マニュアルや計画は策定されており、訓練の予定や報告は、毎月の利用希望表や広報誌で行なっているが、周知に至っていない。 ・受付にマニュアル等を置いているが、手に取ってもらう機会は少ない。	・契約時の確認を徹底する。 ・訓練実施後は、訓練への参加不参加に関係なく、受付時に保護者に対して報告とマニュアル等の確認をしてもらう。